

お兄さん、お姉さんの言葉で入学を決めたという新入生も

オープンキャンパスは学生の学びの場

「夏祭り 進路探検ツアー」と銘打ったオープンキャンパスが7月23日、昼間の猛暑を避けて午後5時半から同8時まで本学キャンパスで行われた。参加した高校生たちは経済学部とリハビリテーション学部に分かれて学生たちと交流した後、一緒に集まり、日が暮れていく海を見ながら軽食を味わい、ミニゲームなどで楽しんだ。



血管年齢の体験を手伝う学生たち



夕日に包まれる海を見ながら軽食を楽しむ参加者たち



オーストラリアの留学体験を話す山崎さん

経済学部では国際文化ビジネス・観光学科で昨夏にオーストラリアやフィリピンの大学に留学した学生がその体験を分かりやすく説明した。4年の山寺光太郎さん（21）＝大阪市出身＝はオーストラリアのウーロンゴン大に留学。知らない土地で一人で電車に乗ったり、買い物に行ったりしたことと自立心と行動力がついたこと。大学の食堂には様々な国の学生が集まり、いろいろな国の食事ができたことで他文化を理解でき、価値観が広がったことを伝えた。電車やバスの発着時間が日本ほど正確ではなかったため、「時間に余裕を持って行動するのを覚え、ゆとりのある時間の使い方を学ぶことができました」と日本とは違う生活スタイルを経験。「自分が成長できた部分をしっかり伝えることができました」と胸を張った。

同じオーストラリアに留学した4年の春名清香さん（21）＝兵庫県明石市出身＝は野生のコアラを見るなどいろいろな動物に出会えた自然環境を説明。英語のコミュニケーション能力もついたことも話すと高校生の目の色が変わったそうで「大学生の中にはどんよりとした顔の人が多く、高校生は楽しそうで若さの圧を感じました」と驚いていた。



高校生の圧を感じた春名さん



1年生の時からオープンキャンパスを手伝っている川原さん

1年の時からオープンキャンパスを手伝っている4年の川原玲奈さん（21）＝徳島県三好市出身＝は学費減免で入学し、大学近くの女子学生専用のマンションで一人暮らしを続けている。観光特別クラス、ホテル・ブライダルコースで学んだことなどを挙げ、「私の経験は引き出しが多いので役立つと思いました。特に女子高生はブライダルを気にする子が多いから。入学後に『玲奈さんが話してくれたから入学を決めました』と言ってくれた子が何人もいます」とうれしそうに話した。

リハビリテーション学部では身体組成、血管年齢、物理治療などの理学療法体験で交流した。学生の助めで機器などに触れると高校生たちは楽しそうに笑みを浮かべた。理学療法学科3年の渡部大夢さん（20）＝兵庫県宝塚市出身＝は「実習では年上の人とはばかりしゃべりますが、年下の高校生には距離を置きすぎず、近づきすぎずに話すのが難しい。いい勉強になります」。同3年の長島颯汰さん（20）さん＝同県養父市出身＝も「上腕二頭筋な力こぶのところだよとか、専門用語はなるべく使わないようにして分かりやすく話しかけています」と気遣っている。



物理治療を参加者に体験させた学生たち



学生相談ブースで参加者から話を聞く渡部さん※と長島さん※



「本日の主役」のタスキをかける
福田さん※と津野さん※

正門まで高校生を迎えにいくのが役目だった同3年の津野貴哉さん（20）＝高知市出身＝は「入学してほしいから次のオーキャンにも来てほしい。僕らの役目は雰囲気づくりなので正門に入ったところから始めました」と巧みな話術で笑いを誘って高校生との距離感を図っていた。「本日の主役」のタスキをかけてキャンパス内を走り回った同3年の福田士敏さん（20）＝愛媛県今治市出身＝は「3つ、4つ年が離れている高校生に怖いと思わせないようにしています。今の1年生に『オーキャンの時にいたお兄さんですよ』と声をかけてもらった。メチャうれしかった。これからもそう言ってくれる人を増やしていきたい」と意気込む。高いコミュニケーション能力が求められる理学療法士を目指す学生にとってオープンキャンパスは絶好の学びの場になっている。